

ぜん ぎょう じ
善巧寺報

9 月号



月刊●善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660
榎本明覚



代表的な秋の味覚「ブドウ」。
生産量全国トップを長年守り続けているのは山梨県。
生産量のシェアは、山梨県が21%、長野県が20%、山形県および岡山県がそれぞれ9%となっ
ていて、これら4県で全国生産量の約6割を占めています。

東京教区の食材

～ ブドウ(葡萄) ～

▼二〇一三年九月一日▲

定例法座

毎
月
十
一
日

◎九月十一日(月)午後二時

三時

於 善巧寺 法輪會館

「仏法聴聞」

こゝも聞こえにや

聞かぬがましよ

聞かにやおちるし

聞きや苦勞

今の苦勞は 先での樂と

氣やすめいえど 氣はすまぬ

すまぬこゝろを

すましにかゝりや

雑修自力とすてられて

すてゝ出かくりや

なほ氣がすまぬ

思えば有念 思わにや無念

どこにお慈悲があるのやら

どうで他力になれぬ身は

自力さらばとひまをやり

わたしが胸とは手たたきで

たった一声聞いてみりや

この一声が千人力

四の五の云うたは昔のことよ

ぢやとて地獄は恐ろしや

なんにも云わぬが

こっちのねうち

そのまま来いのお勅命

いかなおかるも

頭がさがる

連れて行かうぞ

連れられましょぞと

往生は投げた投げた

江戸時代末、山口県下関市にある小さな島、六連島で生まれ育った「お軽」さんによる仏法聴聞の歌です。お軽お同行は人生苦から抜け出したいと熱心にお寺通いを始めますが、どんなにご法話を聴聞されても「仏さまのお慈悲が聞こえない」と大変苦勞されたのでした。聞きたいし聞かねばならない。思えばかりが先にたつばかりでお慈悲

の心が聞こえてこない。聞くのをやめようとも思うけれどやめられない。お軽お同行は、最後には「往生は投げた投げた」と言います。実に極樂浄土に往生できるかできないか、私ごときが思案できる問題ではなかったのです。仏法を聴聞するとは、そのような右も左もわからない私を、そうであるからこそ決して捨ててはおけない、お前のために極樂浄土に参る切符も乗り物も場所も何もかも全て用意してあるぞ、だから私にまかせておくれ、という仏の大慈悲・まごころをお聞かせ頂くことなのです。独り生まれ独り妄想し独り死していく私であつたのが、いつどこにあるうとも南無阿弥陀仏がご一緒の人生であつた、と転換されるのです。本願力にないぬれば、空しく過ぐる人ぞなき、功德の宝海みちみちて、煩惱の濁水へだてなし、と親鸞聖人が仰せられた通りであります。

みほとけ会

※ ZOOM ミーティング ※

毎月第一第三木曜日午後八時〜

参加ご希望の方は、

jetfidget@gmail.com まで

メールお願います。開催当日夕方に招待メールを返信いたします。

秋季彼岸会

◎九月二十三日(祝)

午後二時〜三時 於 本堂

日程

午後二時〜 法要

ひきつづき 法話

「お慈悲の力はぬくいでああ」

午後三時十五分 報恩堂彼岸会

(永代納骨報恩堂前でお勤めい

たします ※荒天時—中止)

◆春日部だより◆

◎八月十一日のお盆法要は酷暑の中も沢山のご参拝を頂きました。昔は仏具が乾燥でひび割れを起こす等の理由で本堂には空調設備が無いのが当たり前だったのですが、ちよつと考えを改めないといけない酷暑ぶりです。今年はお盆らしさを演出しようと提灯を沢山飾つての法要にしました。



Covid-19 感染対策のために中止されていた箱根神社親鸞聖人慈悲の像前「戦没学徒追悼法要」も本年八月二日より再開。法要後は、親鸞聖人帰洛の途次、お弟子と別れた場所と伝わる「甘酒茶屋」で冷やし甘酒をば。



◎浄土真宗で最も大切な法要

『報恩講(ほうおんこう)』

期日は十月二十二日(日)です。詳細は次号お伝えします。